

行政視察報告書

平成 29 年 2 月 13 日

貝塚市議会議長 中山 敏数 殿

公明党議員団

北尾 修
谷口 美保子
前園 隆博

日 時；平成 29 年 2 月 6 日(月) 午後 1 時～ 3 時

視察先；千葉県松戸市松戸フューチャーセンター

面談者；総合政策部 政策推進課 舛井主任主事

松戸市教育委員会 生涯学習部 生涯学習推進課 林参事兼課長・安田課員

【フューチャーセンター設置の背景】(当面のねらい)

- ① 街づくりの多様な地域の担い手の育成に寄与する生涯学習＝人と人とのつながりや絆の再生、或いは創出に寄与することに資する学習機会の提供に取り組む。
- ② 若者世代の街づくりや地域活動への参加の推進
若者世代が集まって街の活性化に向けた新たな機会の創出、フューチャーセンターでの活動や体験を通して、地域参加の意欲の向上と将来の地域の担い手の育成。

【設置の経過】

平成 24 年から生涯学習推進課を中心に「文化ホールを核とした人材育成」として市民・職員向けの「ファシリテーター養成講座」等で対話の手法の研修会を行う。

若者、女性、高齢者の「働く」を考える機会として、又、フューチャーセンターを運営するスタッフの人材育成を目的として、平成 28 年 3 月 26 日(土)に働く未来を一緒に創る『松戸フューチャーセンター』をオープン。行政として初めて正式に運用されることとなった。

【フューチャーセンターとは】

組織(市民、学校、NPO、自治体など)が未来にかかわる戦略・政策の実践を目的に据え、多様な当事者やステークホルダーが対話を通じて、解決手段や新たなアイデアを発見・共有し、相互協力の下で実践するために設ける「場」のこと。

【フューチャーセンターの 4 つの要件とは】

- ① 空間・・・多様な人がいつでも課題を持ち込みオープンに対話できる創造的な空間。
- ② ファシリテーター・・・参加者全員が気持ちよく創造的な対話をし、今まで接点のなかった人同士を問題解決のために一緒になってアクションを起こすように導く。

③ 方法論・・・様々な対話の手法や問題解決の方法論を目的に応じて活用する。

④ おもてなし・・・人としての関係性づくりを促す。

【まとめ】決してフューチャーセンターは魔法の箱ではない、参加する方の対話により課題解決へ向けて動いていく過程の場である。

感想；ワークショップにも参加させて頂き、フューチャーセンターの在り方として、対話の場の大切さ、考える事へのきっかけづくりの場として有効であると感じました。話し易いように木箱を使ったテーブルや椅子、ちょっとした飲み物やお菓子の用意など若者や女性への配慮も感じられました。

場の設置は今ある既存の市の施設で使用可能なところがあるのではないかと考えます。一番大切なのはやはり皆さんの話や思いを引き出し、まとめるファシリテーターであると思います。現在貝塚市に関わっていただいている大学の教授の方々にもっと深く関わっていただければ可能ではないかと思いました。

市民の皆様の熱い思いや良いアイデアが引き出せると益々貝塚が良い街に発展していく、未来が開けていくと感じた視察となりました。

日 時；平成 29 年 2 月 7 日(火) 10 時～12 時

視察先；柏地域医療連携センター

面談者；石原逸美 / 柏市保健福祉部福祉政策課 地域医療推進室

渡辺昌也 / 柏市議会事務局議事課 主査

柏地域医療連携センターについて；

柏市は、いつまでも住み慣れた地域で安心して暮らせるまちを目指して、地域医療・介護の連携を強化し、広めるための取組みを行ってきました。柏市医師会、柏歯科医師会、柏市薬剤師会等の関係団体とともに、柏市の地域医療・介護の発展と市民の療養生活を支援する中核拠点として整備され、以下の機能があります。

機能 1 医療や介護に関する相談・啓発

機能 2 在宅医療が必要な方への調整支援

機能 3 医療・介護の連携強化



内容；柏市は東京大学、UR 都市機構と協力し、長寿社会に向けたまちづくりプロジェクトを行いました。柏市の人口は約 42 万人、高齢化率 24.5%、東京都心から約 30 kmに

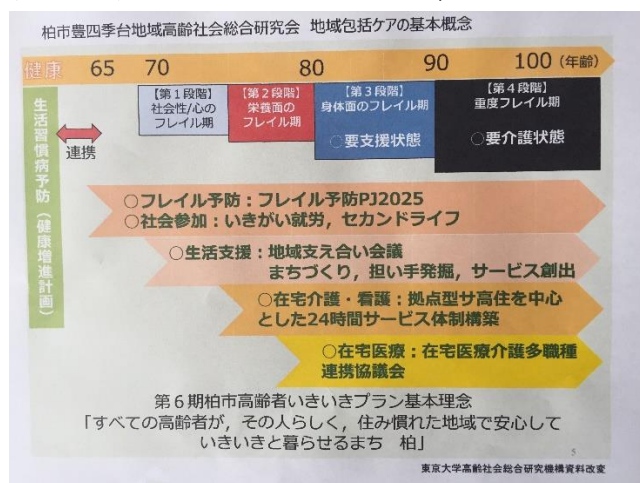
あり、高度経済成長を機に人口が増加した中核都市です。柏市豊四季台地域高齢社会総合研究会は平成 22 年 5 月から 5 箇年行われ、

1. 在宅医療の推進
2. 在宅医療を担う医療・介護職の育成
3. 生きがい就労・生きがい支援
4. 生涯学習
5. 高齢者等の住宅
6. 移動手段
7. その他、必要と認める事項

上記項目の協定の締結を行いました。また、平成 27 年 5 月から 3 箇年の変更協定について、下記の項目を追加しました。

1. 生活支援サービス
2. 健康づくり・介護予防

柏市地域包括ケアの基本概念；



1) 在宅医療と取組みについて

柏市在宅医療・介護多職種連携協議会 在宅医療・介護連携推進事業

ア) 地域の医療・介護の資源の把握⇒在宅医療マップを市 HP で公表

イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

⇒在宅医療・介護多職種連携協議会の設置、地域ケア会議への医療職助言者派遣調整

ウ) 切れ目のない在宅医療と介護提供体制の構築推進

⇒主治医-副主治医制の構築、病院のバックアップ体制の構築、訪問看護ステーション基盤強化

エ) 在宅医療・介護関係者の情報共有の支援

⇒ICT を活用した情報共有システムの運用

オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援

⇒地域医療連携センターで相談及び多職種コーディネートの実施

カ) 医療・介護関係者の研修

⇒在宅医療多職種連携研修会の開催、顔の見える関係会議の開催

キ) 地域住民への普及啓発

⇒各地区社協単位での在宅医療勉強会開催

ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携

⇒県内在宅医療連携拠点事業実施自治体との意見交換会等

2) 生活支援について

地域支え合い体制整備事業

柏市地域支え合い体制整備研究会の設置

地域支え合い体制のあり方を検討する。

事務局；柏市・柏市社会福祉協議会

委員；地区社協、民生児童委員、NPO・ボランティア団体、地域包括支援センター、介護支援専門職、社会福祉法人、学識経験者

3) 介護予防について

柏フレイル予防プロジェクト 2025 推進委員会の設置

フレイル予防の普及・啓発と効果的な推進、地域における市民主体の活動の促進、フレイル予防に係る関係機関の連携・調整等について協議

4) 社会参加について

生きがい就労

① 仕事の開拓

② 就労希望者の募集

③ 就労セミナーの開催

④ 就労体験等

⑤ 各事業所で面接

⑥ 各事業所と雇用契約⇒就労

柏市セカンドライフプラットフォーム事業

高齢者等の就労・社会参加を促進するため、公民学の関係機関が連携し、必要な協議を行う。

5) 住まいについて

高齢者の住まいの確保

拠点型サービス付き高齢者向け住宅等の展開

柏市第5次総合計画への位置づけについて；

平成28年から37年まで

重点目標 健康寿命を延ばしいつまでもいきいきと暮らせるまち

感想；柏市の長寿社会に向けたまちづくりプロジェクトは非常に魅力を感じました。本市においても市民が住んで良かったと思えるように、良いところを取り入れて、魅力ある政策作りに今後も頑張っていきたいと思えます。

日 時；平成 29 年 2 月 7 日(火) 14 時～16 時

場 所；国土交通省、議員会館

面談者；榊 真一 国土交通省大臣官房会計課長
廣瀬 隆正 国土交通省大臣官房技術審議官（都市局担当）
安西 幸光 国土交通省鉄道局鉄道事業課地域鉄道支援室
長谷部 康治 参議院議員石川博崇政策秘書
石川 博崇 参議院議員

内容；貝塚市より国に対する以下の政策要望について、国土交通省他を訪問し要望を行いました。

国土交通省関連

- せんごくの杜の活用のための都市計画道路泉州山手線の早期整備
- 社会資本整備交付金
- 水間鉄道の老朽化した鉄道安全輸送整備の更新等への国庫補助

その他

- 地方創生推進交付金
- 特定不妊治療費助成事業
- 予防接種費用の全額国庫負担
- ひとり親家庭医療助成及び子ども医療助成制度
- 市庁舎等含む公共施設の建替え事業についての財政的支援
- 特別交付税の配分について

以上